

地震学者の母、マーサさんの記者会見での話の和訳を抜粋します。

ケリーは素晴らしい息子でした。彼は短い人生にたくさんの楽しい時間を詰め込んで逝きました。

ケリーは日本のすべてを愛してやみませんでした。兄のパットが日本から交換留学生を連れてきたときから、また、高校・大学の勉強を通じて、彼は、日本の言語、文化、食事、都市や山々に魅了されていました。ケリーやパットが感じていることを理解するために、母の私も日本語を学ぶ必要があると気がつき、ケリーの日本語の先生にクラスで受講させていただいたほどでした。

ケリーは人が大好きでした。友達や知人の方々によりますと、ケリーは皆をくつろがせるのが上手で、よく一緒に笑ったのだそうです。ある時、彼の友人の一人が「ケリーはいつも楽しそうだね!」と言ってくれたのですが、この頃はケリーは強い鬱状態で、部屋で横になっている以外には話すこともままならない様子だったのです。でも、彼が友人たちと出かけるエネルギーがある時には、全力を尽くして楽しんでいたようです。

彼の友人たちが、ケリーと幸せに過ごした時間をビデオにまとめてくれましたので、以下のリンクよりご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=Q2DA8ZQDqHk>

ケリーは友だちを大切にしていました。日本へ行ったり、日本から帰国したりする人たちをウェリントン空港まで度々送り迎えしていたようです。兄をととても愛し、兄を一生懸命見習おうとしていました。日本で過ごした人生最後の3年間、ケリーは兄の子どもと遊ぶのが大好きでした。亡くなる前に、生後2ヶ月の甥っ子に会うことができたのを心から嬉しく思います。

ケリーは大学時代、うつ発作に何度か見舞われ、1ヶ月間の入院を余儀なくされました。しかし、日本語と心理学の学位を取る強い決意を持っていました。日本で英語教師になるという大きな目標を達成するために頑張っていたのです。JET(語学の指導などを行う外国青年招致事業 The Japan Exchange and Teaching Programme) のプログラムに合格したとわかった時には、ケリーは大喜びでした。そしてそのプログラムでほぼ2年にわたり成功を納めていました。彼は日本に暮らすことが大好きでしたし、教師として過ごした小さな町・志布志の生活を楽しんでいました。

ケリーは子供たちを教えることが大好きで、子供達も彼のことが大好きでした。昨年の10月から1月の間、私自身が大学の研究のために日本滞在し、志布志を訪

ねることができました。彼が元気に 頑張って地元のコミュニティーに溶け込んでいるのがわかり本当によかったと思いました。

彼が教えていた7つの学校のうちの1校で先生方や子供たちに会えて、とても楽しい時間を過ごしました。ケリーがどれほど幸せで、どれほど教えることを愛しているかがわかって、私たちも大変嬉しく思いました。

ハロウィーンには 愉快的授業を企画して、子供たちにその授業を通じて英語を学ばせる工夫をこらす ようなこともしていました。子供たちとゲームをしたりしながら英語を学ぶ手助け をして楽しい時間を過ごしました。

子供たちがケリーのこと大好きなのは一目瞭然 でした。

子供達は教室や校庭ではいつもケリーに駆け寄り、お手伝いをお願いしたり、一緒に遊んでとおねだりしていました。

不幸にも今年の4月にケリーの精神状態が不安定になり、日本の病院に入院となりました。この入院の詳細については、パット からお話し申し上げます。私達はいつもケリーの笑顔や、人を誘う笑い声や、彼の優しい人柄を忘れません。

ケリーが教えていた学校の子供達が、素晴らしい寄せ書きやお手紙を贈ってくれました。これを見ると子供達がケリーを失ってとても淋しくおもっていること、そして彼が天国で幸せに過ごしていることを祈ってくれているのが分かります。子供達は彼の愉快的授業が大好きだったと言ってくれていますし、彼の誇りとなるようにもっと一生懸命英語を勉強したいと思ってくれているようです。

Kelly Savage 27 Dec. 1989 - 17 May 2017